

平成30年9月期 決算説明会
(第2四半期)

 **OKUMURA CORPORATION**

平成30年11月13日開催

決算説明会の内容

- 1 挨拶
代表取締役社長 奥村 太加典
- 2 決算及び業績予想の概要説明
代表取締役常務執行役員
管理本部長 田中 敦史
- 3 決算及び業績予想の詳細説明
管理本部経理部長 古澤 浩司



 **OKUMURA CORPORATION**

連結決算の概要

(単位：百万円)

	29/9期	30/9期		
	実績	前回予想 (8月公表値)	実績	対前年同期 増減率
売上高	107,947	109,200	105,543	▲2.2%
営業利益	9,078	5,500	6,810	▲25.0%
経常利益	9,783	6,200	7,786	▲20.4%
四半期純利益	8,954	4,500	5,689	▲36.5%



 OKUMURA CORPORATION

売上高はほぼ前年同期並みでしたが、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに、前年同期を下回りました。

売上総利益は、土木が前年同期に特定の大型工事において大幅に工事損益が改善した反動で低下しています。会計基準の変更もあり単純比較できないものの、連結での開示を開始した平成17年9月期以降の最高益を計上した前年同期と比べると減収減益となりますが、営業利益、経常利益とも過去2番目に高い水準を維持しています。

なお、四半期純利益は、前期に繰越欠損金がなくなり、税負担が増加したことから、営業利益等に比べ、減少率が大きくなっています。

連結業績予想の概要

(単位：百万円)

	30/3期	31/3期		
	実績	前回予想 (5月公表値)	今回予想	対前期 増減率
売上高	223,927	217,000	215,000	▲4.0%
営業利益	15,853	10,000	10,000	▲36.9%
経常利益	17,275	11,200	11,200	▲35.2%
当期純利益	15,163	8,000	8,800	▲42.0%



 OKUMURA CORPORATION

前回予想と比べ、売上高はほぼ同額と見込んでおり、建築の工事採算の改善が見込めるものの、一般管理費が増加する見込みのため営業利益、経常利益を据え置いています。

当期純利益は、下期に保有株式の売却を予定し、売却益が見込めることから、10.0%の増加を見込んでいます。

期末配当は、当期純利益の増加により、前回予想の1株当たり97円から、利益配分の基本方針に基づく個別の配当性向50%相当の1株当たり109円に増額する予定です。

連結B/S

(単位：百万円)

	30/3期末	30/9期末	増 減		30/3期末	30/9期末	増 減
流 動 資 産	190,470	169,630	▲20,839	流 動 負 債	129,856	109,604	▲20,252
現金預金	45,942	43,701	▲2,241	支払手形・ 工事未払金等	58,985	41,298	▲17,687
受取手形・ 完成工事未収入金等	112,287	84,051	▲28,235	短期借入金	11,659	9,499	▲2,160
有価証券	10,999	25,000	14,000				
固 定 資 産	123,393	127,946	4,553	固 定 負 債	16,283	20,560	4,277
有形固定資産	45,314	45,216	▲98	長期借入金	3,141	5,134	1,993
無形固定資産	280	280	▲0	負 債 合 計	146,140	130,165	▲15,974
投資その他の資産	77,798	82,450	4,652	株 主 資 本	130,746	127,414	▲3,331
投資有価証券	74,759	79,416	4,656	その他の 包括利益累計額	36,977	39,997	3,020
				純 資 産 合 計	167,723	167,412	▲311
資 産 合 計	313,863	297,577	▲16,285	負債純資産合計	313,863	297,577	▲16,285

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、30/3期末の数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値です。

資産合計は16,285百万円減の297,577百万円、純資産は311百万円減の167,412百万円となりました。

流動資産は、有価証券が増加しましたが、受取手形・完成工事未収入金等の売上債権が減少したことなどにより、20,839百万円減少しました。

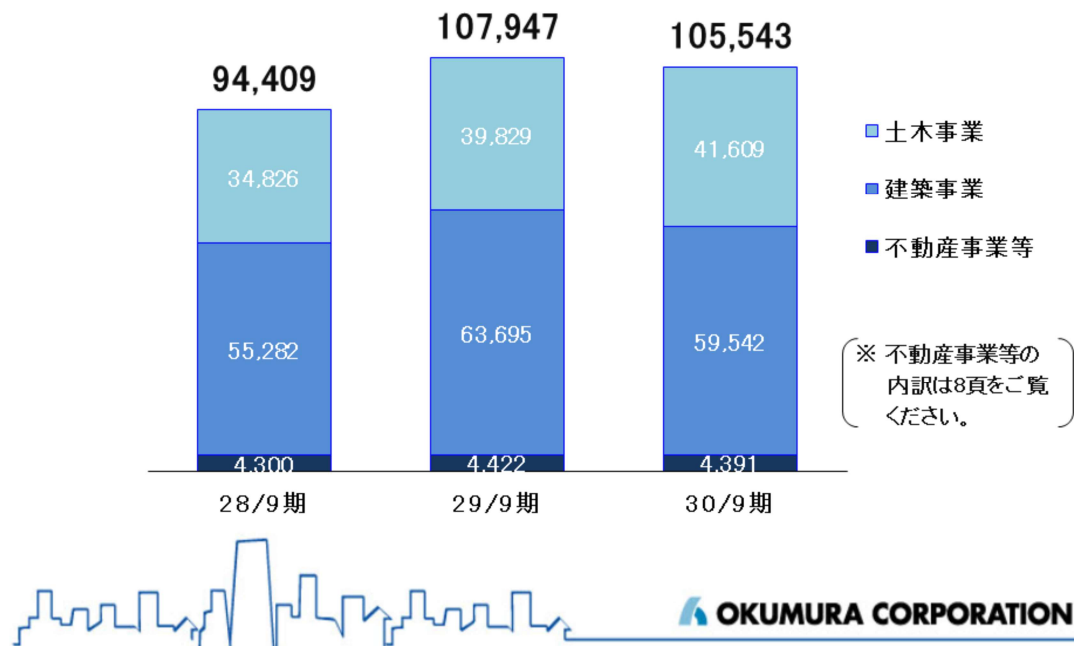
固定資産は、投資有価証券の含み益の増加等により、4,553百万円増加しました。

流動負債は、支払手形・工事未払金等の仕入債務の減少等により、20,252百万円減少しました。

自己資本比率は、資産合計が5.2%減少、純資産が0.2%減少し、前期より2.9ポイントアップの56.3%となりました。

連結P/L(売上高)

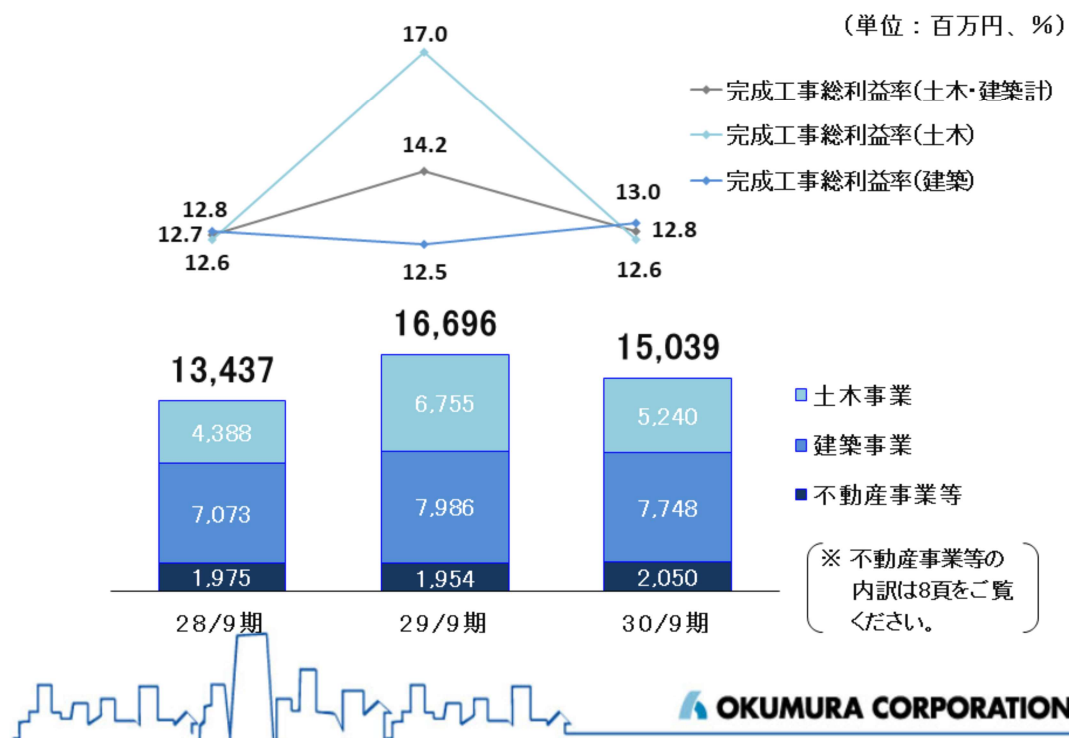
(単位：百万円)



前年同期と比べ、土木は、1,779百万円増の41,609百万円、建築は4,153百万円減の59,542百万円、合計で、2,373百万円減の101,151百万円となりました。

前年同期と比べ、土木は4.5%増、建築は6.5%減、建設事業で2.3%減となりましたが、近年の受注高増加に伴い、前年同期に引続き建設事業で1,000億円超の売上高を計上しています。

連結P/L(売上総利益)



土木は、1,515百万円減の5,240百万円で、4.4ポイントダウンの12.6%、
 建築は、237百万円減の7,748百万円で、0.5ポイントアップの13.0%、
 合計では、1,752百万円減の12,988百万円で、1.4ポイントダウンの12.8%となりました。

土木は、前年同期に大幅に工事損益が改善した大型工事があった反動で利益率が低下しました。

建築は、売上高が減少しましたが、売上総利益率の改善により、ほぼ前年同期並みの売上総利益を計上しています。

なお、工事損失引当金は、

土木が、完成により615百万円、損失見込み額の減少により208百万円を取崩し、前期比823百万円減の981百万円、

建築が、完成により20百万円、損失見込み額の減少により220百万円を取崩し、前期比241百万円減の298百万円、

合わせて、1,064百万円減の1,280百万円となりました。

不動産事業等の内訳

(単位：百万円)

	28/9期		29/9期		30/9期	
	実績		実績		実績	
売上高	4,300	100%	4,422	100%	4,391	100%
不動産事業	2,334		2,093		2,415	
販売	390		80		346	
賃貸他	1,944		2,012		2,069	
その他	1,965		2,328		1,975	
売上総利益	1,975	45.9%	1,954	44.2%	2,050	46.7%
不動産事業	1,589	68.1%	1,576	75.3%	1,816	75.2%
販売	100	25.8%	19	24.0%	230	66.5%
賃貸他	1,488	76.6%	1,556	77.3%	1,586	76.7%
その他	386	19.7%	378	16.3%	234	11.9%



 OKUMURA CORPORATION

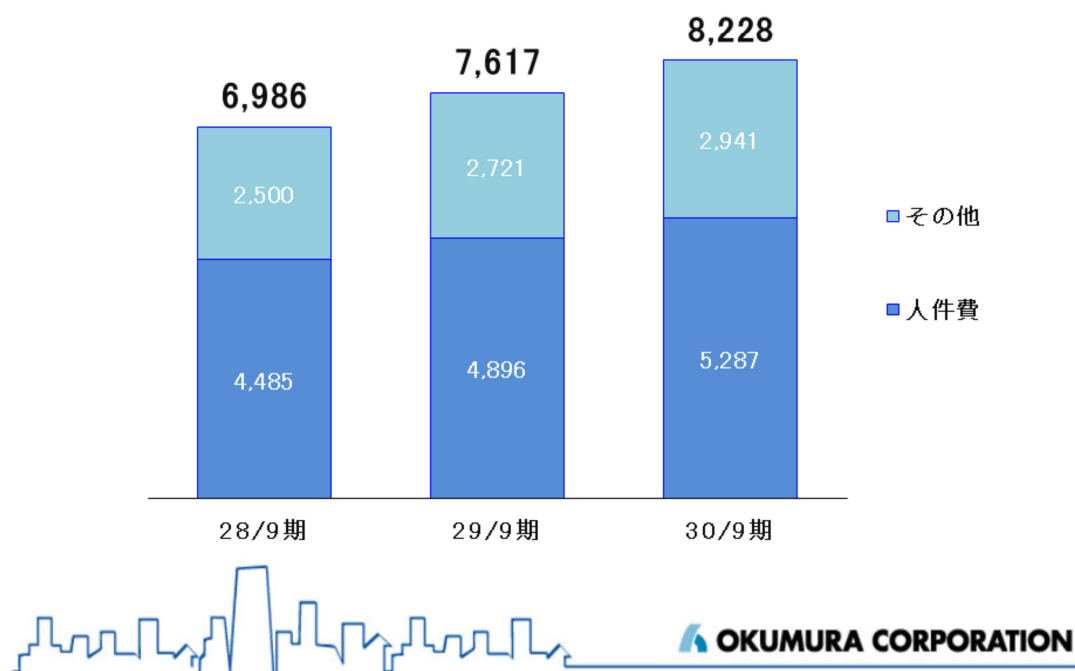
不動産事業等の売上高は、不動産事業が322百万円増の2,415百万円、その他が353百万円減の1,975百万円となりました。

その他は、主に奥村機械製作の建設資機材等の製造・販売事業によるものです。

売上総利益は、不動産事業が240百万円増の1,816百万円、その他が144百万円減の234百万円となりました。

連結P/L(一般管理費)

(単位：百万円)



一般管理費は、611百万円増加した8,228百万円となりました。

人件費については、ベースアップや賞与の増加により、390百万円増加しました。

人件費以外のその他については、研究開発費や広告宣伝費の増加により220百万円増となりました。

連結P/L(営業外収支)

(単位：百万円)

	29/9期	30/9期	
	実績	実績	増減
営業外収益	791	1,066	274
受取利息配当金	692	711	18
貸倒引当金戻入額	－	203	203
営業外費用	87	90	3
支払利息	68	77	8
営業外収支	704	975	270
金融収支	624	634	9



 **OKUMURA CORPORATION**

営業外収支の黒字幅は、貸倒引当金戻入額203百万円の発生などにより、270百万円増の975百万円になりました。

連結P/L(特別損益・法人税等)

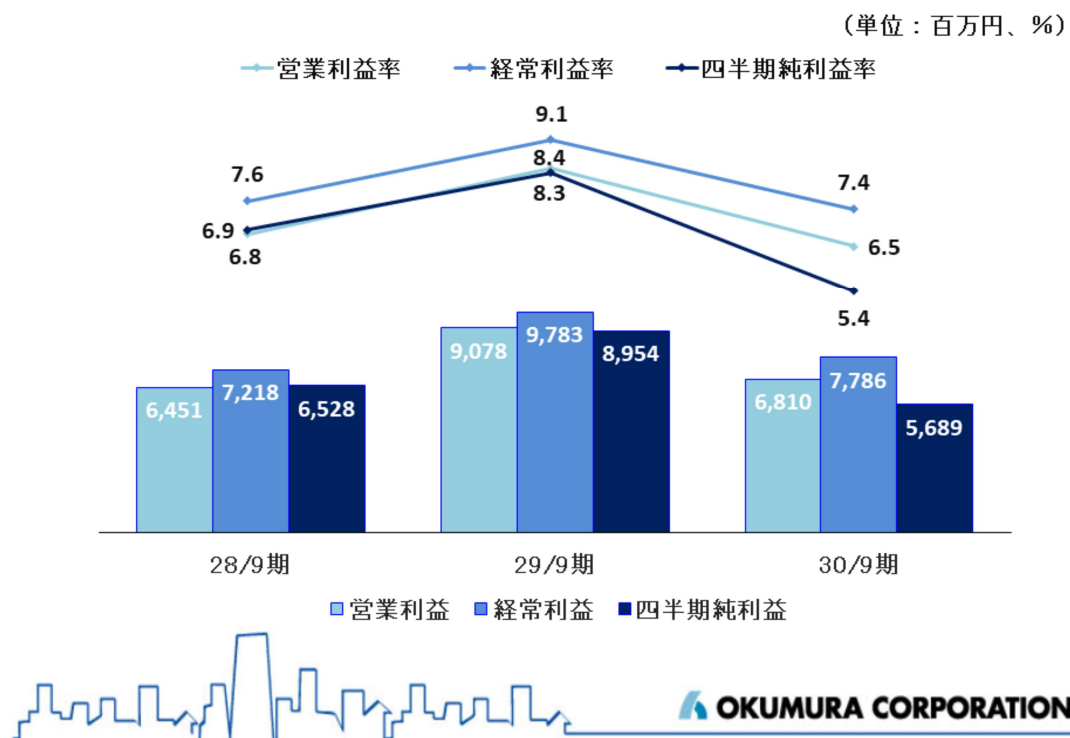
(単位：百万円)

	29/9期	30/9期	
	実績	実績	増減
特別利益	173	79	▲93
固定資産売却益	48	79	31
投資有価証券売却益	125	-	▲125
特別損失	2	46	44
固定資産売却損	-	42	42
特別損益	170	32	▲137
法人税、住民税及び事業税	1,006	1,239	232
法人税等調整額	▲7	890	897
法人税等合計	998	2,129	1,130

特別損益の黒字幅は、投資有価証券売却益125百万円が発生した前年同期に比べ、137百万円減少した32百万円となりました。

法人税等については、前年同期は、繰越欠損金があり税負担を低く抑えることができていましたが、前期に繰越欠損金はなくなり、当第2四半期から通常の税負担が発生していることにより、1,130百万円増加した2,129百万円となりました。

利益の推移(連結)



営業利益は前年同期比25.0%減の6,810百万円、経常利益は20.4%減の7,786百万円、四半期純利益は36.5%減の5,689百万円となりました。

連結での開示を開始した平成17年9月期以降の最高益を計上した前年同期と比べると減益となっていますが、営業利益、経常利益とも過去2番目に高い水準となっています。

なお、四半期純利益は、税負担の増加により、営業利益等に比べ減少率が大きくなっています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	28/9期	29/9期	30/9期	
	実績	実績	実績	増減
営業キャッシュ・フロー	25,376	75	21,874	21,798
投資キャッシュ・フロー	▲3,143	▲13,835	▲24,591	▲10,755
財務キャッシュ・フロー	▲10,373	▲5,968	▲9,168	▲3,200
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲49	2	4	1
増減額	11,809	▲19,725	▲11,881	7,844
現金及び現金同等物の期首残高	25,379	55,958	54,486	▲1,472
現金及び現金同等物の 四半期末残高	37,188	36,233	42,605	6,372



 OKUMURA CORPORATION

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務等が減少しましたが、売上債権の減少等により、21,874百万円の黒字、

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得等により、24,591百万円の赤字、

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により、9,168百万円の赤字になりました。

連結業績予想

(単位：百万円)

	30/3期		31/3期			
	実績		前回予想 (5月公表値)	今回予想		対前期 増減
売上高	223,927	100%	217,000	215,000	100%	▲8,927
建設事業	213,135		207,000	205,000		▲8,135
土木	81,229		86,000	87,000		5,770
建築	131,906		121,000	118,000		▲13,906
不動産事業等	10,791		10,000	10,000		▲791
売上総利益	32,765	14.6%	27,500	28,000	13.0%	▲4,765
建設事業	28,570	13.4%	23,500	24,000	11.7%	▲4,570
土木	12,360	15.2%	11,000	11,000	12.6%	▲1,360
建築	16,209	12.3%	12,500	13,000	11.0%	▲3,209
不動産事業等	4,194	38.9%	4,000	4,000	40.0%	▲194
一般管理費	16,911	7.5%	17,500	18,000	8.3%	1,088
営業利益	15,853	7.1%	10,000	10,000	4.7%	▲5,853

売上高は、土木が870億円、建築が1,180億円、合わせて2,050億円、不動産事業等が100億円、合計2,150億円で、前回予想から土木は10億円増、建築は30億円減、差引20億円減を見込んでいます。

売上総利益、利益率は、土木が前回予想と同額の110億円、0.2ポイントダウンの12.6%、建築が5億円増の130億円、0.7ポイントアップの11.0%合計で5億円増の240億円、0.3ポイントアップの11.7%、不動産事業等は前回予想と同額の40億円、40%、全体で5億円増の280億円、0.3ポイントアップの13.0%と見込んでいます。

建築については、手持工事の採算が改善してきたことから増益を見込んでいますが、土木については、前回予想を据え置いています。

一般管理費については、研究開発費や広告宣伝費の増加などにより、5億円増の180億円を見込んでいます。

したがって、営業利益は、前回予想の100億円を据え置いています。

連結業績予想

(単位：百万円)

	30/3期		31/3期			
	実績		前回予想 (5月公表値)	今回予想		対前期 増減
営業外収益	1,619	0.7%	1,400	1,400	0.6%	▲219
営業外費用	197	0.1%	200	200	0.1%	2
経常利益	17,275	7.7%	11,200	11,200	5.2%	▲6,075
特別損益	319	0.2%	—	1,400	0.7%	1,080
税金等調整前 当期純利益	17,595	7.9%	11,200	12,600	5.9%	▲4,995
法人税等	2,431	1.1%	3,200	3,800	1.8%	1,368
当期純利益	15,163	6.8%	8,000	8,800	4.1%	▲6,363

R O E	9.5%	5%程度	5%程度
-------	------	------	------

1株当たり配当額	184円	97円	109円
----------	------	-----	------



 OKUMURA CORPORATION

営業外収益については、前回予想から変更なく、経常利益も前回予想の112億円を据え置いています。

特別損益については、下期に保有株式の売却を予定しており、売却益が見込めることから、投資有価証券売却益を計上し、14億円の黒字を見込んでいます。

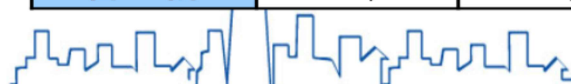
以上により、当期純利益は、前回予想から8億円増加した88億円を見込んでいます。

1株当たりの配当額は、前回予想の97円から、利益配分の基本方針に基づく個別の配当性向50%相当の109円に増額する予定です。

参考：受注高実績(個別)

(単位：百万円)

	29/9期	30/9期		
	実績	前回予想 (5月公表値)	実績	対前年同期 増減率
土 木	29,754	40,000	43,695	46.9%
官公庁	19,422	29,000	19,797	1.9%
民 間	10,331	11,000	23,898	131.3%
建 築	38,077	55,000	38,263	0.5%
官公庁	9,992	10,000	5,475	▲45.2%
民 間	28,084	45,000	32,787	16.7%
合 計	67,831	95,000	81,959	20.8%



 OKUMURA CORPORATION

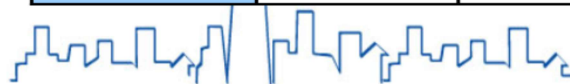
土木については、リニア中央新幹線工事を2件受注したこともあり、前年同期比46.9%増の436億円となりました。

建築については、ほぼ前年同期並みの382億円で、合計では、前年同期を20.8%上回る819億円となりました。

参考：受注高予想(個別)

(単位：百万円)

	30/3期	31/3期		
	実績	前回予想 (5月公表値)	今回予想	対前期 増減率
土 木	82,481	85,000	85,000	3.1%
官公庁	57,051	63,000	52,000	▲8.9%
民間	25,429	22,000	33,000	29.8%
建 築	119,644	130,000	130,000	8.7%
官公庁	15,258	25,000	20,000	31.1%
民間	104,386	105,000	110,000	5.4%
合 計	202,126	215,000	215,000	6.4%



 OKUMURA CORPORATION

土木、建築とも、第2四半期の実績等をもとに、官公庁を減らし、民間を増やしていますが、土木850億円、建築1,300億円、合計2,150億円を据えています。

通期の受注高予想に対する第2四半期までの進捗率は、土木が51.4%、建築は29.4%で合わせて38.1%となっていますが、内定済みの案件や営業中の案件があり、これらを確実に受注に繋げることで、予想値を達成できる見込みです。



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。